



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 295
2021/10/01

今月の一枚

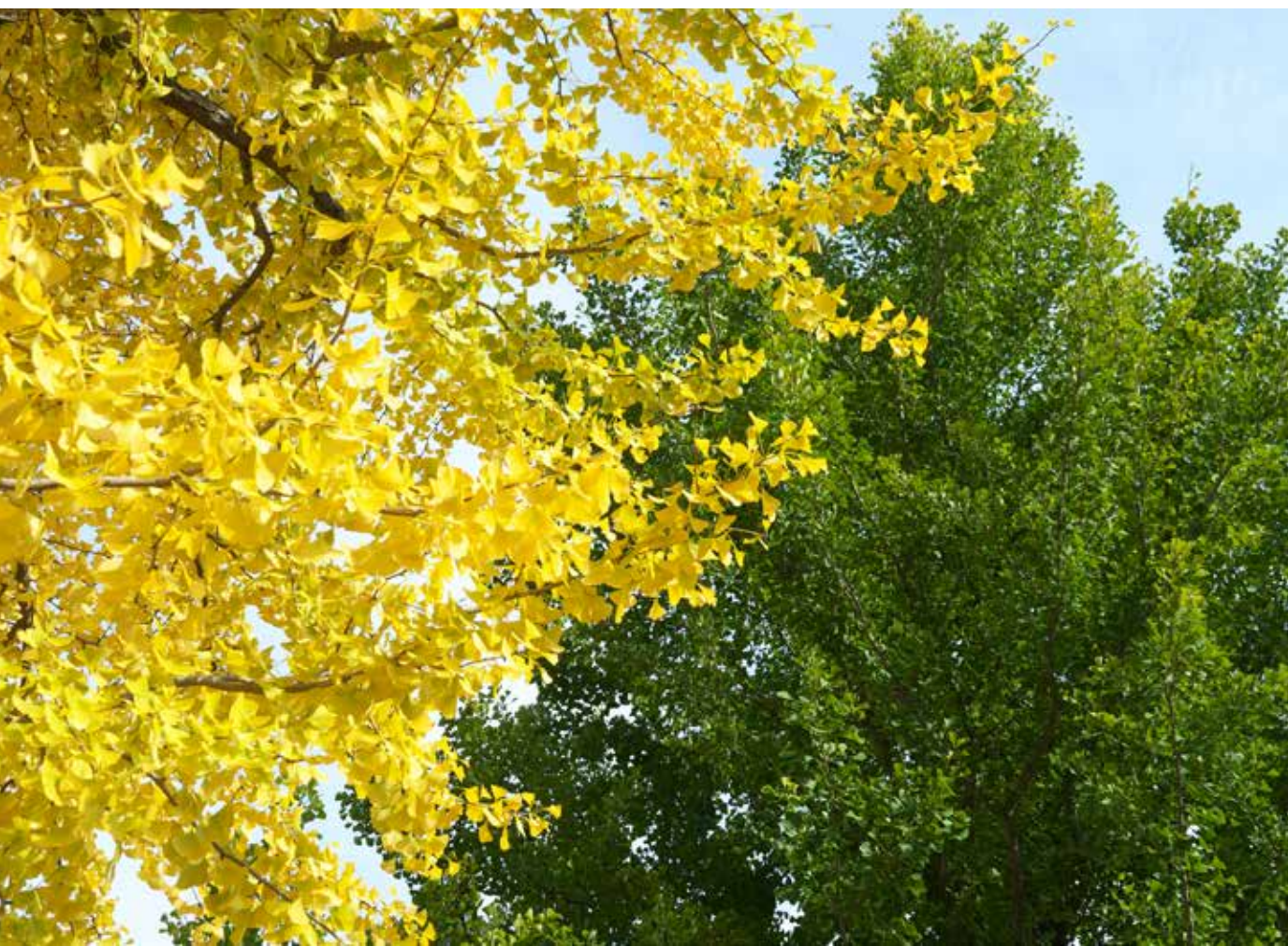
今月のイベント

参加者募集

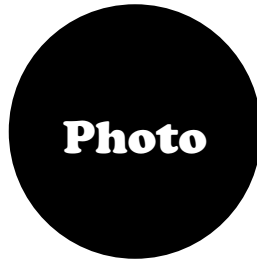
GREEN COLUMN

01. ギンザケ

02. 美幌小学校のかしわの木



今月の一枚



「2本のイチョウ」

表紙写真・文／町田善康

美幌神社には、2本のイチョウの木が植えられています。同じ場所に並んで植えられた2本のイチョウですが、不思議と紅葉する時期が異なります(写真手前が黄色で、奥が緑色)。

一昨年前、この不思議な現象に出会い、まさかと思って昨年も見に行くとやっぱり紅葉する時期が違います。

さてさて、今年はどうなるのか10月が楽しみです。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」 ～10月24日（日）

ロビー展「すごい標本！すごい資料！」 ～10月6日（水）

開館記念日「無料開館と工作」 10月3日（日）

体験会「初心者からのコケ観察」 10月9日（土）

プチ工房「ハロウィンのがま口ポーチ」 10月15日（金）、16日（土）

博物館講座（自然編）「樹木治療の現場を見てみよう」 10月30日（土）

Information. 参加者募集

開館記念日「無料工作・ハロウィンバッグ」 10月3日（日）

●10/3（日）①10:00開始、②11:00開始、③14:00開始、④15:00開始、作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階講座室・修理室 ●無料、マスク ●美幌博物館職員 ●美幌博物館へ電話申込み（-10/2）。各回定員20名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

体験会「初心者からのコケ観察」

●10/9（土）10:00-12:00 ●美幌みどりの村森林公園 ●参加費100円、野外で活動できる服装、カッパ、マスク ●内田暁友（植物研究家） ●美幌博物館へ電話申込み（-10/6）。高校生以上24名で締切。

プチ工房「ハロウィンのがま口ポーチ」

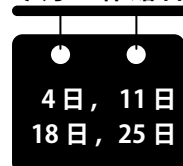
●10/15（金）、16（土）①10:00開始、②11:00開始、③14:00開始、④15:00開始、所要時間30分、作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階講座室 ●参加費300円、マスク ●久保田結衣（美幌博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（-10/14）。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

博物館講座（自然編）「樹木治療の現場を見てみよう」

●9/25（土）9:30-12:00 ●美幌町西2条北4丁目（美幌小学校校庭） ●参加費100円、汚れても良い服装、帽子、筆記用具、マスク ●鈴木順策（樹木医） ●美幌博物館へ電話申込み（-10/27）。中学生以上～一般20名で締切。小学生の参加も可能。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用、持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



ギンザケ

写真・文／町田善康



今年、北海道東部では、サケの定置網にギンザケが多く入っているようです。私の知る限り、こんなにもギンザケが捕獲されている話は、聞いたことがありません。そのせいか、市場にもよく流通していて、鮮魚コーナーで目にした方も多いはずです。大きさはサケよりも小ぶりですが、味はすこぶる良いので、私はギンザケを見つけたらすぐに買うようにしています。

さて、このギンザケ。普通は、日本よりも、もう少し北側の北部太平洋地域（ロシア連邦やアメリカ合衆国）に生息しています。そのため、日本ではめったに見ることができません。産卵は、サケのように川を遡上して行われ、生まれた稚魚はサクラマスのように1-2年間、川で生活した後、海にくだります。海での生活は1-2年で、50cm ぐらいまで成長した後、生まれ

た川に戻って産卵します。このように、暮らしぶりは、サケとサクラマスを含ませたような一生となっています。

ごく稀に、日本の川にも遡上することがあるようで、千歳川や標津川、岩尾別川などで遡上したという話があります。成熟すると体の色が真っ赤になるので、非常に見つけやすいです。とても美しい魚ですから、ぜひ見たいものです。今年は、たくさんのギンザケが北海道沿岸にいるので、もしかすると生まれた川を間違えて遡上してくる個体がいるかもしれません。これから秋は、サケの観察会を実施するため、川に行く機会が多いので、ギンザケに出会えるかもと、楽しみにしています。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

美幌小学校の かしわの木

写真・文／鬼丸和幸



美幌小学校の校庭およびその周辺には、立派なかしわの木があります。このかしわの木（8本）は、「小学校が開校して100年間に渡り、数多くの町民・児童を見守り送り出す等、人々の暮らしと深く関わり合いながら年輪を刻み続け、多くの町民に知られてきた美幌町のシンボリック的存在」という理由により、平成11年10月に美幌町文化財の指定を受けました。

昨年、このかしわの木を樹木医さんに診ていただいた際、木の幹や枝に病変が生じていることがわかり、今秋、樹木治療作業を行うことになりました。

樹木治療というと、一般的には馴染みが薄いのですが、人間と同じように、病気が生じた箇所を外科手術したり、栄養分を吸収しやすい状態に環境を整えたりする作業となります。人間の場合、例えば切り傷が生じた場合、まずは傷口を消毒した後、包帯等を巻いて

患部を保護した状態にしておくと、やがて自然に傷口が塞がり元通りになっていきます。樹木治療で行う外科手術も、同じ要領で行われます。木の幹に病変が生じた場合、まずは木の成長に影響がないように病変部を切除し、防菌剤を塗布した後、傷口がうまく塞がるような処置を施し、保護カバーを取付けます。治療直後は、治療箇所が人工物（ウレタン樹脂）に覆われ、見た目は良くありませんが、年数が経ていくと、木の表面組織が治療箇所を覆うように成長していくため、治療跡が全く見えないようになります。

美幌小学校のかしわの木。将来にわたり、大切に見守って欲しいと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....
コロナワクチン。恐る恐る第1回目…アレレ？
痛くも痒くもなく腕も上がる。少し緊張して第2
回目…アレレ？腕に少しの痛みと微熱だけで、普
段の体調と何も変わらず。巷では、副反応の大小
は免疫効果を反映しないと言っていますが、本当
にそうなのか気になります。(鬼丸)